

# AMDA

## 多様性の共存

# ジャーナル

認定 特定非営利活動法人アムダ (AMDA)  
<http://amda.or.jp/>  
 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構  
<http://www.amda-minds.org/>  
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター  
<http://amda-imic.com/>  
 AMDA 兵庫  
[http://www.amdainternational.com/amda\\_hyogo/](http://www.amdainternational.com/amda_hyogo/)

### 日本と菅波代表との出会い

**AMDA** 本日はありがとうございます。タンラ先生は、日本とのご縁も長く深く、平成16年には日本の外務大臣表彰も受けていらっしゃいますよね。

**タンラ** AMDAとの歴史は1981年にさかのぼりますね。1981年に広島大学医学部麻酔科で博士号を取りました。そして同年、岡山駅でAMDAグループ代表の菅波先生にインドネシア支部設立の依頼を受けて、快諾して以来の仲です。私の大好きな言葉、「ファンタスティック」な出会い、まさに「AMDAと一緒に年を重ねてきた」と感じています。私は、神が繋いでくれたこのご縁に心から感謝しています。日本で勉強をする機会を与えられ、菅波先生や多くの友人に恵まれました。殊に菅波先生と知り合えたことは、本当に幸運だったと思います。私はこの世に「偶然」というものはないと信じています。すべては始めから決まっていたことだと考えています。菅波先生に会ったこともこれは「偶然」ではなく「必然」です。私は、これまで多くの親切的日本人に出会い、そしてそれが広がって多くの活動に繋がっています。さらに日本以外の各支部の先生方など世界の方たちに出会う事が出来ました。これは菅波先生のお蔭です。

### 緊急医療支援と人財育成

**AMDA** AMDAインドネシア支部設立以来、何度も緊急医療支援チームを被災地に派遣されてますよね。2004年に発生したスマトラ島沖地震津波の際の

2015年7月25日 VOL.38 第274号 定価550円  
 発行/AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1  
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717  
 E-mail:member@amda.or.jp  
 郵便振替:01250-2-40709 □口座名:特定非営利活動法人アムダ

2015年  
夏号

夏

救える命があればどこへでも

## 連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第5回

AMDA インターナショナル 緊急救援委員会委員長、AMDA インドネシア支部長 インドネシアスラヴェシ島ハサヌディン大学麻酔科元学部長

## アンディ フスニ タンラ 医師

AMDA を支えてくださっているご支援者の皆様に、インタビュー形式で様々なエピソードをご紹介している「支える喜び」シリーズ。

第5回目となる今回は、世界30カ国にある支部の中でも、AMDA 多国籍医師団をけん引して多くの緊急医療支援活動に関わってくださっている インドネシア支部の支部長 アンディ フスニ タンラ医師にお話をお聞きました。



インドネシア支部の機動力は、まさに「ファンタスティック」でしたね。

**タンラ** ありがとうございます。あの時はAMDA本部からの電話を受けて、3時間後にはAMDAインドネシア支部として医療チームを結成し、被災地に向けて第1陣を派遣しました。私は、緊急医療が専門です。トリアージ、心肺蘇生法などを大学で教えています。これは医師にとって、とても大切なことです。年齢や状態によりますが、4分間呼吸が止まれば人は死ぬのですから。即座に正しい判断をもって措置をすることは必須です。緊急救援を行う団体として少しでも早く、効率よく活動を行うことは、至上命題です。AMDAの活動を通じて、そういうことを一人でも多くの学生にも伝えたいと思っています。

**AMDA** 人財育成を視野にいれられているんですね。そういえば、タンラ先生は、昨年ハサヌディン大学全体でもっとも学生をやる気にさせる教授No.1に選ばれましたそうですね。

**タンラ** ジャカルタのプリタハラパン大学博士課程でも同じ賞に選ばれました。多くの学生が自分のことを覚えてくれていることが嬉しいです。インド

ネシア医師会の元会長もその中の一人です。多くの素晴らしい学生にも恵まれました。

### 見返りを求めない誠実さ

**AMDA** タンラ先生のお人柄もありますよね。それには日本での留学経験が影響していますか。

**タンラ** 日本には「お蔭様で」という言葉があります。私も日本で受けたご恩に「お返し」をしたいと思います。即座に実行したいと思いました。ハサヌディン大学麻酔科にAMDAネパールから留学生がきたとき、自分が日本で受けた親切を、このネパール留学生に返したいと思いました。日本人は、すべてにおいて正直で誠実です。「見返りを求めない誠実さ」これは日本で私が学んだことです。これは実にイスラム教の考え方に繋がるものです。

菅波先生は私より若いけれど、私は、菅波先生のように生きたいと思っていますよ。実に多くのことを、誠実さをもって行っていますからね。

**AMDA** これからのご自身とAMDAとの活動をどのようにお考えでしょうか?

**タンラ** これからもAMDA緊急救援活動はもちろん、人財育成、奨学金、フードプログラムなど他の人たちのために自分も頑張りますよ。菅波先生が提唱している「世界平和パートナーシップ構想」のためにAMDAと一緒に。

**AMDA** そう言って頂けて心強いです。これからも引き続きよろしくお願ひします。本日はありがとうございました。

## 「おかやま国際塾」 5期生が活動開始

おかやま国際塾とは、岡山県内在住の大学生を対象としたグローバル人財育成プログラムです。研修の企画、立案および実施のすべてに関わる機会を AMDA から提供することにより、国際貢献活動への理解を深めかつ企画および管理能力を身につけ、社会のグローバル化に対応できる人材を養成することを目的としています。AMDA と岡山大学教員が共同で運営する「おかやま国際塾」実行委員会で運営されており、今年で5年目を迎えます。

2015年度おかやま国際塾5期生3名のメンバーが決定し、6月7日に開講式を行いました。現在、8月に予定しているベトナムでの研修に向けて、準備を進めています。塾生3名の「おかやま国際塾」にかける思いを以下に抜粋して紹介いたします。



海外研修に向けて準備を行う5期生ら

### 岡山大学 法学部3年 橋本 梨加

国内での事前研修が始まって3週間ほどが経ちました。このおかやま国際塾の意義は、研修国に行くこと自体よりも、仲間と協力して企画を一から立ち上げてゆく事前研修にあると言えます。

自分たちで研修の企画・立案をすることは予想以上に大変なもので、会議中5期生全員が考え込んでしまって議論がストップすることもしばしばあります。本当にベトナムでそれが実現可能なことか、起こりうるあらゆる可能性を考慮します。そうすると、また議論がふりだしに戻ることも。準備にかかる時間はいくらあっても足りないと感じています。

大国の利害関係に採られた歴史と、日本とは大きく異なる社会構造をもつベトナムでの国際貢献活動を通じて、国際社会において自分に何ができるのか、平和と安全保障の観点から学習したいです。そして、現在ベトナムが抱えている問題・課題の解決に携わり学んだことを、帰国後日本人々に伝えたいと思っています。

通常の大学生活ではめったに経験することのできない大きなチャンス。どんな壁にぶつかろうとも決して妥協することなく、同じ志をもつ仲間とともに学びに満ちたプログラムを創りあげてゆきたいです。

### 岡山大学 法学部2年 本間 祐輝

このプログラムに対する私の意気込みは主に三つあります。

一つ目は、日本以外の他文化を身をもって体感し、理解することです。私は今まで、海外に行った経験がありません。ゆえに、文化というものに対して、自分自身が漠然とした感覚しか持っていないように思います。他文化社会の下に自らを置くことで、自分が日本人であることを強く実感し誇りを持つのではないかと思います。

二つ目は、今の自分たちにできることを考え、実践することです。今回は、ベトナムのことについてより詳しく下調べをし、ベトナムについての知識を深め、自分たちが日本の大学生という立場・身分を考慮し、最高の活動をするのが大切であると考えます。

三つめは、プロジェクトを一から作り上げ、成功させることです。二つ目の意気込みと重なるところもありますが、これは、私が今回のプログラムに応募した一番の理由です。一つのチームとして協力し、限られた時間の中で一つのプロジェクトに励んでいくという経験は、自分にとって大きな財産になると思います。

今回のプログラムを経て、4期生の方たちの様に大きく成長したいと思っています。

### 岡山大学 工学部1年 玄馬 之善

私は中学生のころから世界に貢献できるような大人になりたいと思っていました。この活動に参加すれば、海外での研修を通して、自分の人生で国際社会に貢献する土台を作れるのではないかと強く思うようになりました。

おかやま国際塾では、実際に海外に行って現地の生活や文化、経済の事情を学び、現地の人々との交流を通して異なる考えをもつ人々を理解し、協力してプロジェクトを成し遂げていく術を体得することができると考えています。また、自ら目的を設定し、何を学ぶのか、どこを訪問するのか、どのような活動をするのかを考え、他の塾生とともに現地研修内容を企画し、自分たちで考えた活動を実行できます。

この経験を通じて物事を捉える視野を広げ、世界、特に発展途上国は何を必要としているのか、また自分は何を学ぶべきなのか、何をしていくべきなのかを見つけていきたいと思っています。更に異なる文化や価値観を持った人たちと交流し、自分の文化や価値観との違いを理解することで、世界を視野にいれ国際的に活躍できる人材になりたいと思っています。そして、人生を通して、技術支援や慈善活動などあらゆる形で国際社会に貢献していきたいです。

## AMDA 中学高校生会 ～夏のイベントに向けてとりこんでいます～

AMDA 中学高校生会は、ボランティア、国際協力などに興味のある岡山県内の中学生、高校生約30人が自主的に活動を行っています。月に一回程度の定例会を基本にし、「学生だからこそ出来る活動」を念頭に置きながら、学生が主体となって、活動計画や、学習会などを行っています。

特にこれから夏休みにある2つの大きなイベントに向けて取り組んでいます。岡山県主催「地域ボランティアリーダー養成研修」では、7月29日、8月3日、5日の3回に渡り、ボランテ



ア体験発表として登壇することが決定しています。

また8月19日からは高校生2名がスリランカに向けて出発します。これは2011年から実施している「スリ

ランカ医療和平プログラムⅡ～スポーツ・文化・宗教交流～」への参加を目的としており、AMDA 中学高校生会からの参加は初めてとなります。

学生は、それぞれのイベントに向けてプレゼンテーションの準備や、事前の情報共有など熱心に準備を進めています。

AMDA 中学高校生会では、常時メンバーを募集しています。見学も可能。お気軽にお問い合わせください。  
ボランティアセンター TEL 086-252-7700  
メール member@amda.or.jp

# 第1回 AMDA 南海トラフ地震対応プログラム 調整会議

今後発生しうる南海トラフ地震津波被害に向けて、支援活動が円滑に行われるよう、AMDAでは岡山、香川、高知、広島などの基礎自治体や企業、医療機関と協力をしながら、「AMDA 南海トラフ地震対応プログラム」として準備を進めています。

6月27日、丸亀市消防本部を会場に、第1回 AMDA 南海トラフ地震対応プログラム調整会議を開催しました。

当日は、総社市・丸亀市・AMDA 災害時応援協定書に基づき、片岡総社市長、梶丸亀市長、菅波 AMDA グループ



会議の様子

代表の3人が議長を務め、自治体関係者、医療機関など約110人が参加しました。

会議では、南海トラフ発生時に、想

定している医療チームの派遣ルート、活動予定の避難所の場所の説明などをし、各自治体には、輸送関係や、通信手段、ボランティアの宿泊施設の確保など、10項目について説明し、事前準備の必要性を確認しました。

第二回調整会議は9月12日に総社市で開催を予定しています。次回会議では、各自治体の準備状況のほか、医療活動がスムーズに行うための準備、海外からの医療チームの受入体制などを検討します。また、第3回目にはシミュレーションの実施なども予定しています。

## ネパール中部地震被災者に対する復興支援活動

2015年4月25日にネパール中部で発生したマグニチュード7.8の地震発生から3か月。同国内では約80年ぶりとなる大地震となりました。7月に入っても余震が続いています。死者8,897人、負傷者22,309人と報告されており、建物の全壊は53万件以上、半壊28万件以上の大災害となりました。(ネパール政府6月発表)

AMDAでは緊急医療支援活動に続き、AMDA ネパール支部、トリブバン大学教育病院、ネパール医師会などと連携し、復興支援活動を継続しています。

### AMDA・日本医師会・ネパール医師会合同復興支援事業 ～カウンセリングボランティア養成講座～

復興支援の一環として、日本医師会、ネパール医師会と共同で、被災者の精神的ケアの充実を図るため、カウンセリングボランティアの養成講座に取り組みしています。これは、緊急医療支援用にAMDA医療チームが診察した患者の中に精神的なサポートが必要な患者が多くみられ、継続的な支援が必要と判断したことから実施が決定したものです。

6月12、13日の2日間で、第1回目となる講座をカトマンズ郡ダディン町の地域保健事務所で開催しました。地域のヘルスアシスタントや地方の開発担当のスタッフなど30人が参加し、精神科の専門家からPTSDや鬱、喪失などの心の問題、ストレス対処法、カウンセリング技術を学びました。

この講座でカウンセリング技術を学んだボランティアの方々が、それぞれの現地集落で、精神的な問題に苦しむ被災者の心のケアに対応することを期待しています。今後も引き続き、同様の講座開催を継続していく予定です。



養成講座の様子

### AMDA・トリブバン大学教育病院合同復興支援事業 ～無料巡回診療の実施～

AMDAはトリブバン大学教育病院との合同復興支援事業として、シンデウパルチョコ郡での無料巡回診療を実施しています。これは山間部の支援が行き届きにくいエリアに住む被災者を対象とした医療支援活動です。

AMDA ネパール中部地震緊急医療支援活動派遣者一覧 (2014.4.29～5.31 まで)

日本からの派遣 (派遣順)		
柴田 幸江	AMDA インターン/岡山県在住	看護師
大政 朋子	AMDA 職員/岡山県在住	調整員
山本 太郎	E R ネットワークメンバー/福岡県在住	医師
神田 貴絵	AMDA E R ネットワークメンバー/バングラデシュ在住	看護師
菅波 茂	AMDA グループ代表/クアラルンプール在住	医師
米田 哲	AMDA E R ネットワークメンバー/福岡県在住	医師
シュレスタジョシアルチャナ	AMDA インターン/岡山県在住	調整員
山崎 希	AMDA 職員/岡山県在住	看護師
佐藤 拓史	AMDA E R ネットワークメンバー/福岡県在住	医師
高橋 宗康	AMDA E R ネットワークメンバー/岩手県在住	医師
押谷 晴美	AMDA E R ネットワークメンバー/兵庫県在住	看護師
青山寿美香	AMDA E R ネットワークメンバー/東京都在住	薬剤師
加藤辰一朗	AMDA E R ネットワークメンバー/埼玉県在住	医師
神崎 真姫	AMDA E R ネットワークメンバー/大阪府在住	助産師
酒井ひろ子	AMDA E R ネットワークメンバー/大阪府在住	助産師
山田 裕子	AMDA E R ネットワークメンバー/大阪府在住	看護師
ニッティヤン・ヴィーラヴァーグ	調整員/AMDA 職員/岡山県在住	調整員
西嶋 望	AMDA E R ネットワークメンバー/ネパールボカラ在住	理学療法士
海外からの派遣 (派遣順)		
Noth Mony (ノース モニー)	AMDA カンボジア支部	医師
Tim Daro (ティム ダロ)	AMDA カンボジア支部	看護師
Ramachandra Kamath (ラマチャンドラ カマト)	AMDA インド支部支部	医師
Santhosha Nayak (サントーシャ ナヤク)	AMDA インド支部支部	看護師
Alamgir Mohammad Humayun (アラムギル モハマッドフマーユン)	AMDA バングラデシュ支部	医師
Pargat Singh Bhaurji (パルガート シング プールジ)	AMDA カナダ支部	医師
Collin Young (コリン ヤング)	AMDA カナダ支部	医師
Rowena Hiceta Alcido (ロウエナ ヒセタ アルシド)	フィリピン D A P	医師
Aljune Contayaso Patiam (アルジュン コンタヤソパティアム)	フィリピン D A P	医師

\*皆様からネパール地震のために頂いた寄付金は、ネパールの復興支援の為、今後2年間被災者支援活動に役立てて行きます。

## GPSP 生活向上プログラム AMDA フードプログラム

AMDA フードプログラムは、「食は命の源」をコンセプトに、アジアに有機農業を啓発・普及することを目的としたプログラムです。岡山県真庭郡新庄村野土路地区に AMDA 農場を開設し、あひるを使った農業を使わない有機稲作栽培を中心とした農業を実践しています。2012 年 4 月にスタートした同プログラムはインドネシア、フィリピンからの農業研修生の受け入れを通じて、更なる広がりが生まれています。

### AMDA 野土路農場 2015 年 田植えセレモニーとアヒルの進水式を実施



5月31日、野土路農場で田植えセレモニーを行いました。新庄村の民謡同好会の有志のみなさんが三味線と太鼓の音に合わせて田植え歌を歌って応援してくださり、賑やかに田植えを行うことができました。

また6月4日には、新庄村保育園の園

児22名とともに60羽のアヒルのひなを田に放す、進水式を行いました。子どもたちに「大きくなってね!」と声をかけてもらったアヒルたちは、夏までの間、虫や草を食べることで農業を使わない美味しい米の栽培に力を貸してくれます。

### AMDA マリノ村有機農業実践圃場 現在の様子とフォローアップ研修報告

インドネシアスラウェシ島マリノ村にある有機農業実践圃場では、2013年度に日本で有機農業研修を受けた研修生を中心に、有機農業の取り組みがスタートしています。研修生の帰国後から、AMDAは新庄村および新庄村アジア有機農業連携活動推進協議会の協力のもと、研修生のフォローアップを行っています。収穫量が増えるなど少しずつ成果が表れています。

2014年11月にマリノ村での有機農業技術研修を担当した新庄村アジア有機農業連携活動推進協議会の稲田氏から活動の感想が届きましたので抜粋して紹介させていただきます。



11月10日から20日までの10日間で農業技術指導に行かせていただきました。新庄村からは2回目の派遣ということで、前回の研修からのステップアップを目的としました。実

施した研修内容はもみ殻燻炭作り、もみ酢液の採取方法、土着金の利用方法、はで干しのやり方、牛の飼い方などです。

今回の技術指導で、私の持つ技術をなるべく伝えたいと思いましたが、時間が足りませんでした。また、さまざまな課題も見つかり、今後とも引き続き指導や支援を続けていきたいと思っています。村の人々との触れ合いから、宗教や文化の違いはあるけれど、本当に人間らしい生活をしているように感じました。これから先、農業だけでなく文化や教育の面でも、新庄村とマリノ村の交流を繋げていきたいと思います。

新庄村 稲田 康男

### フィリピンとの有機農業相互研修 現在の様子とフォローアップ研修報告

2014年度の有機農業相互研修として2名の有機農業指導者がAMDA野土路農場を中心に半年間来日していました。

研修生2名はフィリピン国内で有機農業の技術指導者であったため、帰国後には、日本で学んだ技術を広く、国内で共有する機会を設けているとの報告が入っています。さらにフィリピンの研修生の帰国後の2015年2月、フォローアップ研修としてAMDAスタッ



フ1名と新庄村の有機農業技術者2名がフィリピンを訪れ技術指導を行いました。新庄村の有機農業技術者の鈴木

2月20日から10日間、フィリピンに行ってきました。フィリピンでは出生率3.08で人口が増え続けており、収穫増収のために品種改良と農業、除草剤の普及が進んでいると感じました。

そこで、今回指導項目の一つとして実践した「どぶろく酒づくり」などの発酵技術がガキとなると感じました。気温が高いため、日本よりかなり早く発酵が進行します。稲作や野菜栽培にも応用できる可能性は充分あります。たとえば、堆肥作りや田での腐敗を抑える乳酸菌や酵母の活用。野菜では太陽熱養生処理による団粒構造の構築などがすぐに取り入れられると感じました。既存の発酵技術の一部導入するだけでも、土壌改良に有効だと感じています。

新庄村 鈴木 一成

氏、坂本氏から研修の感想が届きましたので以下に抜粋して紹介させていただきます。

マニラは、人口1652万人から成る大都市です。しかし訪れたフィリピンの農家の人々は貧しく家も質素でした。また貧富の差が大きく、地方の農家の人々は貧しく子供を学校に行かせるのがやっとということでした。しかし、一生懸命に生きていて、子どもたちの目は輝いているのが印象的でした。

研修ではサツマイモの苗の植え方、サツマイモの天ぷら作り、どぶろく酒の作り方、合鴨農法の指導などを行いました。参加して下さった地元の方々は、どの研修にも熱心に聞いてくださり、質問が飛び交いました。

今回の研修を通じ、今後、農民の人たちが儲かる農業を目指しながら、少しでも暮らしが楽になればと思いました。

新庄村 坂本 英典

## GPSP 医療支援プログラム インドネシア口唇口蓋裂無料手術事業



5月28日～30日、AMDA インターナショナルは、AMDA インドネシア支部、セレベス・クレフトセンターおよび台湾 IHA と共同で、インドネシア・スラウェシ島パレパレ市アンディマッカサウ病院を会場に、無料口唇口蓋裂手術プログラムを実施しました。台湾 IHA と AMDA はこれまで、スリランカやトルコにおいて、白内障無料手術、歯科診療プログラムなどを実施しており、今回は5回目となる合同医療支援プログラムとなりました。

プログラムを実施したパレパレ市は、遠隔地であるため、平時は十分な医療が不足していること、さらに口唇口蓋裂手術に対する需要が高かったため、プログラムの実施場所として選定されました。台湾 IHA から医師5名、看護師3名を含む医療スタッフ10名、AMDA インターナショナルから調整員1名、セレベス・クレフトセンターの形成外科医6名、計17人からなる医療チームでプログラムの実施にあたりました。

5月28日には患者のスクリーニングを行い、翌29日と30日の丸2日かけて合計30名に無料口唇口蓋裂手術を行いました。口唇裂、口蓋裂、口唇口蓋裂の手術のほか、一度口唇形成術を受け、再手術が必要な患者に対して口唇形成術、口蓋形成術、咽頭弁移植術、唇、鼻の形成など複雑な手術治療を行

いました。患者とその家族に対して、術後の創傷ケア教育も行いました。

患者30名のうち20名が女性、10名が男性でした。年齢別で見ると、14歳から27歳の患者が7名、6ヶ月から9歳の患者が23名でした。

これらの患者のほとんどが、セレベス・クレフトセンターの無料手術情報を家族や友人、メディアから見聞きして、他の島からはるばるやってきていました。

活動場所として手術室3部屋を提供してくださったアンディマッカサウ病院の院長、副院長からは、無料口唇口蓋裂手術ミッションに対して大変感謝されました。また、南スラウェシ、パレパレ市長からは合同チームが行った活動に対する感謝の言葉と共に盾もいただきました。

## GPSP ヘルスプロモーションプログラム カンボジア健康啓発事業 2015

AMDA カンボジア支部では、「HIV/AIDS プロジェクト」「マラリア予防プロジェクト」の2つのプロジェクトを去年に引き続き実施しました。

### HIV/AIDS プロジェクト



エイズプロジェクトでは基礎知識普及のためのパンフレットとTシャツを作成し、5大学、6高校に配布しました。また世界エイズデーには①新たな感染のゼロ②エイズに対する差別ゼロ③エイズ関連死ゼロをスローガンに活動を実施しました。学校を会場としてエイズの基礎知識を取り入れたクイズや、伝統的な歌人形劇などが行われました。これらの活動はカンボジア政府の打ち出している2020年までに国内からエイズを撲滅するという目標に貢献しています。参加後の評価として取り入れている参加者テストからは、参加学生が内容をよく理解していることが伺え、彼らがこれらの知識を家族や友人等に普及していくことを願っています。

### マラリア予防プロジェクト



マラリア予防プロジェクトでは、地域における村落普及ボランティアとマラリア対応可能なヘルススタッフの育成、地域における健康教育普及活動、村落普及ボランティアやヘルススタッフの定期的な会議の開催、アムダスタッフによる活動の見守り、などを行いました。特に健康教育では、正しい蚊帳の使用方法やマラリア知識の保健指導方法、抗マラリア薬処方削減、マラリア罹患調査法などを指導しました。

今年は新たに4つの地域を加えて活動を行うことができました。70人の女性を含む200の地域で実施することになりました。他のマラリア予防教育を実施している団体や地域と協同してより良い活動を実施しました。

## GPSP 多国籍医師団プログラム 大洋州大型サイクロン「バム」復興支援事業

2015年3月に大洋州を襲った大型サイクロン・バムは、バヌアツ、ツバル、



キリバスなどの国々に大きな爪痕を残しました。被害の大きさを鑑み、AMDAでは3月18日に看護師1名、調整員1名からなる医療チームを派遣し、ツバルでの物資提供などを実施しました。さらに6月12日には第2次派遣者として調整員1名がキリバスに向けて出発。復興支援に向けた調査をスタートさせました。

キリバスでは被災前から上下水道の設備がなく、衛生状態が悪い状況でし

たが、被災により公衆トイレなどの設備も破壊されさらなる衛生状態の悪化が懸念されていました。そこでAMDAでは公衆トイレの再建を支援することを決定。現在6カ所の公衆トイレの再建を手掛けており、工事が進行している状況です。

### 【派遣者】

ニッティヤン・ヴィーラバーク／調整員／AMDA 職員

## ネパール大地震緊急医療支援活動続報 ～復興支援に向けて～

4月25日に発生したネパール中部地震の被災地支援に対して、AMDAカンボジア支部から医師1名、看護師1名がAMDA多国籍医師団として参加しました。ネパール・ヌアコットでの活動に参加したモネイ医師から活動報告が届きましたので以下に紹介します。(関連記事P3)

### 国籍医療ミッションに参加して - AMDAカンボジア モネイ医師からの報告

ネパール地震に対する緊急医療支援活動への参加を求める緊急連絡が、日本のAMDA本部から入ったのは5月2日のことでした。5月5日、ネパールの首都カトマンズに到着した私たちAMDAカンボジア医療チームは、AMDAネパールの医師らと合流し、カトマンズから100キロメートルほど離れた近郊の村で、医療活動を開始しました。2つの村で100人

の患者の診察を行いました。水の供給不足、衛生環境の不十分などが原因と思われる、胃腸炎、皮膚疾患、風邪などが主な疾患でした。私たちの行った医療支援活動は、現地の人々に歓迎されました。

続く5月7日からは、AMDAインドチームも合流し、ヌアコット郡へ移動。翌日からの3日間に述べ350人の患者を診察することができました。ここでは胃腸炎



患者の診察を行うネイ医師(写真中央)

や風邪症状、皮膚炎の他に、外傷や精神的な症状を訴える人々も見られました

私が滞在できたのはたった1週間でしたが、このミッションに参加し、緊急救援にどう関わるかなど多くのことを学び、AMDAの一員として被災者に貢献できたことを誇りに思います。我々AMDAの理念である「相互扶助」の精神が永遠に続くことを願っています。

## 台湾爆発火災事故に対する医療調査

6月27日、台湾新北市内の複合レジャー施設で大規模な爆発火災事故が発生しました。爆発により発生した火災で3人が死亡、負傷者約500人。現在も432人がやけどなどを負って入院しており、うち291人は集中治療室で治療を受けています。(新北市衛生局7月2日発表)

この事故に関する台北駐日経済文化代表処からの連絡を受け、AMDAでは日本医師会と共同で現地調査の実施を決定。7月2日には医師2名を台湾に派遣。台湾外交部、台湾医師会、台湾路竹会の協力のもと、被災者が入院する病院や関係機関を訪問し、皮膚の移植手術などが必要な重度の熱傷患者が多数いることが分かりました。今後の支援活動については、



台湾の空港到着時にインタビューを受ける菅波代表

日本医師会、台湾医師会と調整をしながら進めていく予定です。

### 【派遣者】

菅波 茂：医師/AMDAグループ代表  
氏家 良人：医師/日本集中治療医学会理事、川崎医科大学救急総合診療特任教授、岡山大学名誉教授

## 音楽を通じた支援活動

### 【倉敷アカデミックウィンズ】

倉敷アカデミックウィンズ様は、これまでも音楽を通じた支援活動として、定期演奏会でチャリティーコンサートを開催し、集まったご寄付をAMDAにお届けくださっています。5月17日には「第7回わくわくコンサート」を開催され、会場で募金を集めてくださいました。



### 【やかげ町屋交流館 クリングル YAKAGE V・P・Fトリオコンサート】

6月21日、やかげ町屋交流館 谷山サロンを会場にクリングル YAKAGE V・P・Fトリオコンサートが開催されました。これはAMDAネパール中部地震の被災地支援チャリティーコンサートとして開催されましたもので、ネパールからの留学生らも参加し民族衣装に身を包み音楽に合わせて伝統舞踊を披露されました。



### ■徳島医師会と連携協定締結

5月22日、AMDAは徳島県医師会と、大規模災害時における支援に関する協定を結びました。



### ■就実学園と連携協力協定を締結

6月29日、就実学園大学図書館会議室を会場にAMDAは学校法人就実学園と連携協定を締結しました。



多くの方々からご寄付をいただきました。一部を紹介します。



岡山市立石井小学校様



秋原工業株式会社様



全日信販株式会社様